



国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

発行元: 豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター
住所: 〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
TEL: 0532-44-6655 FAX: 0532-81-5108 E-mail: manager@recab.tut.ac.jp

2021年10月15日
No. 82

東海地域の6次産業化推進人材育成第10期生開講式



東海地域の6次産業化推進人材育成第10期生
開会式集合写真(2021年9月4日)

2021年9月4日(土)に「東海地域の6次産業化推進人材育成」の開講式が行われ、10期生14名を迎えました。浴俊彦先端農業・バイオリサーチセンター長とプロジェクトリーダーである山

内高弘同センター特任准教授の挨拶に始まり、開会式後のオリエンテーションでは、受講生の自己紹介、本プログラムへの受講動機や学びたい事、現在取り組んでいることなどを紹介していただきました。お互いに交流を深め、4ヶ月に及ぶプログラム期間中が充実した時間になるよう期待しています。
(文責 水鳥絵理)

令和2年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」ニューファーマーサポートコースの開講式が行われました!



ニューファーマーサポートコース開講式の写真
(2021年8月28日)

「コロナ禍で増加しつつある失業者を中心に、非正規雇用労働者及び転職希望者等のうち、農業での就労または就農希望者等を対象に、豊橋技術科学大学が、これまでに蓄積した技術科学的な成果と農業人材育成事業の実績を踏まえ、農業への就労をサポートする教育プログラム

「ニューファーマーサポートコース」の開講式が2021年8月28日(土)に、コロナ対応を踏まえて、オンラインで行われました。開講式では浴俊彦先端農業・バイオリサーチセンター長及び来賓(このプロジェクトの運営委員)の方の挨拶や、山内高弘同センター特任准教授からプロジェクトの概要・スタッフ紹介が行われました。これから2022年1月まで、約5ヶ月に及ぶプログラム期間中、39名が共に学び合い充実した時間となることや、新規就農、農業への就職、転職が実現されることを期待します。
(文責 山内高弘)

先進事例の視察研修をスマートフォンによる中継で行いました!

当センターでは、「植物工場マネージャー9期生12名」及び「IT食農先導士(土地利用型)5期生6名」の先端施設研修・先端IT農業研修と「東海地域の6次産業化推進人材育成事業10期生」受講生14名の先進事例調査研修を同時に行う「合同視察研修」を計画して行いました。しかし、新型コロナウイルスの感染リスクが高止まりする中で断念し、代わりに、スマートフォンによるリモート中継視察を実施しました。視察は、10月9日(土)に実施し、午前中が豊橋市七根町、山元和彦氏の「Cocoeハウス」におけるトマトの高糖度栽培及びその経営状況を、午後が、豊川市萩町(有)「こだわり農場鈴木・鈴木晋示氏(IT食農先導士1期生のブランド米及びシイタケ栽培の生

産・経営状況を視察しました。

また、10月10日には、「ニューファーマーサポートコース37名」の方達が、同様に、スマートフォンによるリモート中継視察を実施し、午前が、岡崎市岡町(有) 小久井農場・小久井正秋氏の低農薬栽培米や野菜の大規模経営を、午後が碧南市桃山町(株)にいみ農園のトマトオリジナル品種の開発及びトマトを含む野菜栽培、経営状況の視察を行いました。

両日とも、経営主の方に、①経営体の概要(歴史、従業員数、工場(栽培)面積、組織図など)、②経営理念、③経営状況、④将来への展望等を話していただき、その後、栽培、出荷現場を案内していただきました。いずれも、リモートではありませんでしたが、受講生の方達からは、熱のこもった質問が積極的になされ、それに対して、経営主の方達からは、丁寧にお答えいただきました。いずれも大変有意義な研修となりました。(文責：山内高弘)



山元和彦氏T-cubeハウスの視察研修風景

旬の食べ物カシユウイモ(エアーパーテト、宇宙いも)

学名：Dioscorea bulbifera L.

英名：Air potato

カシユウイモは、東南アジア原産、ヤマノイモ科ヤマノイモ属の植物です。カシユウイモの主な食用部位のむかごは、地下部ではなく地上部(空中)のつるの葉腋にできることから、「Air potato=エアーパーテト」と呼ばれ、熟したむかごの表面は黒褐色になり、不規則な形や大きさであることから隕石に見立てて「宇宙いも」とも呼ばれています。ヤマイモやジネンジョのむかごは、アズキやダイズほどの大きさのものが多いです。しかし、カシユウイモのむかごは、卵の大きさのものからそれ以上の大きさにもなります。むかごの表皮を少し削ると、その下に緑の地の色が出てきますが、その果肉は黄色く、皮を剥いたときに、掘りたての筍のような香りがほのかにします。その味はジャガイモのように淡泊な味わいです。栽培方法は、一般的なヤマイモと同じようにつるを伸ばします。葉は一般的なヤマイモ類よりも大きく、繁茂するので、緑のカーテンとしても使えます。植え付けは霜が降りなくなつた春先くらいからで、地下部の芋はそれほど大きくなりません。プランターでも栽培できます。収穫は10月頃から順次行え、11月頃まで収穫できます。(文責：熊崎 忠)



カシユウイモ

季節の花紹介

ケイトウ (学名：Celosia cristata L.) は、ヒユ科ケイトウ属の夏から秋まで長く開花する一年草です。原産地は、熱帯アジア、インド。アジア、アフリカ、アメリカなどの熱帯、亜熱帯などに約30〜40種が分布すると言われていています。また、原産地では、多年草ですが、日本の気候では花後に枯れてしまうので一年草として扱われています。

ニワトリのトサカに似た赤い花をつけることからケイトウ(鶏頭)と呼ばれるようになったと言われています。色づく部分は茎が変形した花序で、形によりトサカケイトウ、羽毛ケイトウ、ヤリケイトウに分けられています。発芽適温は25℃前後。まき急がず、5月上旬以降になつてから



ケイトウの花

まくようにします。移植を嫌うので、直まきか、ポットなどにまいて育苗してから根鉢を崩さないよう注意して植えつけます。嫌光性のタネなので、軽く覆土して、発芽まで新聞紙などをかぶせて光が当たらないようにしておくと良いでしょう。植えつける場合は、根を切らないように注意します。日当たりと水はけのよい場所が適地です。有機質に富む土を好むので、あらかじめ堆肥、腐葉土などを多めにすき込んでおきます。生育には十分な水分が必要ですが、根がしつかり張るまでは極端に乾かさなないようにします。施肥は、庭植えでは、ほとんど不要です。鉢植えでは、本葉3〜4枚のころから蕾が出るまで、月に3回くらい液体肥料を施します。日当たりや水はけがよくないと、立枯病や灰色かび病が出やすくなります。また、連作障害も発生するので、数年ごとに場所を変えるのが安全です。(文責：山内高弘)